



▲栄えある初代王者に輝いたチーム福岡の(左から)原口、川添、藤永、鶴井、原野、中島の6選手。「前期からメンバーは入れ替わったけど、ゲームを重ねることにチームワークも深まって優勝できたのは本当にうれしい」と原口キャプテン

io.LEAGUE2024(後期)

前期ブービーの チーム福岡が初代王者に!

8月27~31日
池袋ロサポウル
(無観客開催)

史上最強クラスの勢力で九州に上陸した台風10号が迷走し、徐々に衰えながらも列島を縦断して、ゆっくりと首都圏に迫り来るなか、都内豊島区の池袋ロサポウルで集中開催された「io.LEAGUE2024(後期)」は、下位で前期を折り返したチームの反転攻勢で大混戦の様相を呈した――。
(主催：(公社)日本プロボウリング協会 io.LEAGUE実行委員会)

前期最下位の愛媛も5戦全勝!

前期終了時点での総合順位は①千葉②東京③大阪神戸④湘南⑤福岡⑥愛媛だったが、4日目(通算8日目)まで千葉が全敗、獲得ポイントはわずか8と大失速。2勝2敗の東京と大阪神戸も、ポイントはそれぞれ16、18と伸び悩んだ。反対に最下位折り返しの愛媛が全勝で30ポイントを獲得。ブービーだった福岡は、2日目の千葉戦で大会初の800シリーズ、4日目の大阪神戸戦の3G目には初のパーフェクトを達成し、3勝1敗ながら愛媛を

上回る38ポイントを獲得した。湘南も新たにメンバー入りした宮澤拓哉がポイントゲッターとなり、2日目の大阪神戸戦では3-0のストレート勝ち。1勝3敗ながら20ポイントをゲットした。4日目終了時点で順位は①福岡②東京③大阪神戸④愛媛⑤千葉⑥湘南となり、最終日のポジションマッチは福岡8-2東京、大阪神戸2-8愛媛、千葉6-4湘南という結果に。総合成績は別表のとおりで、東西の1位同士で争われるチャンピオンシップは福岡 VS東京のマッチアップとなった。

後期5戦全勝ながら西地区2位でファイナルステージ進出はならなかった愛媛だが、越智崇オーナーは「クラブチーム第1号として爪痕は残せたと思う」と満足げ。前期首位・千葉の岩見彩乃キャプテンはラストゲームで一矢報い、ホッと胸を撫で下ろしていた。

モデルチームがクラブチームに快勝

そして迎えたチャンピオンシップは、後期リーグでの勢いの差がそのまま出てしまった印象で、組織委員会の選抜メンバーによるモデルチームの福岡が、タイトルホルダーをズバリ揃えたクラブチームの東京に9-1(3Gの勝敗は2勝1分け)で快勝し、栄えある初代王者チームに輝いた。福岡



▲優勝を喜ぶチーム福岡を敗れたイグナイト東京も笑顔と拍手で称えた。歴戦のタイトルホルダーが居並ぶ東京だが、ポジションマッチの1G目でも大会最少スコアの167を記録するなど後期リーグは本領発揮ならず

東	チーム	メンバー
	ビーナッツ千葉	小林哲也・森本健太・高田浩規・戸辺誠・本間成美・川崎由意・岩見彩乃
	イグナイト東京	姫路麗・藤井信人・大嶋有香・藤村隆史・坂本かや・坂本就馬
	チーム湘南	永野すばる・斉藤琢哉・宮澤拓哉・名和秋・小久保実希・本橋優美
西	チーム	メンバー
	ゼクス大阪神戸	小原照之・安里秀策・大久保雄矢・寺下智香・久保田彩花・石田万音
	チーム福岡	川添奨太・原口優馬・藤永北斗・中島瑞葵・鶴井亜南・原野萌花
	愛媛オレンジサンダーズ	山本勲・山下昌吾・和田秀和・三浦美里・山田幸・浅田梨奈・幸木百合菜

順位	チーム	ポイント	勝	敗
1	チーム福岡	58	5	4
2	愛媛オレンジサンダーズ	48	6	3
3	イグナイト東京	47	5	4
4	ゼクス大阪神戸	45	5	4
5	ビーナッツ千葉	44	4	5
6	チーム湘南	38	2	7

チーム	スコア	順位
チーム福岡	9-1	1st ● 235
イグナイト東京	258 ○	2nd ● 202
	246 ○	3rd △ 231
	231 △	TOTAL 668



▲新規加入の鶴井がストライク6個でチャンピオンシップ勝利に貢献。「チームのみなさんが温かく迎え入れてくれて、楽しい雰囲気なかで自分のボウリングを全力で出切ることができました」

が不在だったものの、中野麻理子に代わって新規加入の鶴井亜南が7投中6投でストライクと奮闘し、勝利に貢献した。個人戦とは異なるチーム戦ならではの駆け引きと重圧、カレントスコアシステムと各種ボーナスポイントが加算される勝ち点制を採用した試合方式が波乱の結果?の大きな要因で、それが逆にio.LEAGUEの面白さでもある。改善すべき点も少なくないが、JPBAは来春に第2回リーグを開催予定。新たなクラブチーム誕生の情報もあり、どのようにブラッシュアップされてボウリングファンの前に提示されるのか、期待して正式発表を待ちたい。

は前期リーグの個人スタッツで上位にランクしていた徳久恵大

特別編 Vol.18 report 山下 知且

U22福岡サマーカップ中2の須見選手が優勝

今年で7回目を迎えた「U22 Fukuoka Summer Cup 2024 sponsored by STORM」(8月7~9日)は、昨年に続き博多駅近くのパピオポウルで開催されました。この大会は日本で定期的に開催する唯一の公式国際大会で、海外に挑戦したくてもなかなか難しい日本の若いボウラーのために…、という趣旨に賛同して、多くの企業やサポーターズクラブの寄付、そしてストーム社、ハイ・スポーツ社の絶大なる支援によって運営されています。

日程を夏休みの平日に設定したこともあり、北は北海道から南は沖縄まで多くの日本のボウラーが参加してくれました。一方で9月にタイで開催さ

れるアジア選手権のためにタイオープンがこの大会の直前に設定され、逆に海外からの選手が今年は例年の半以下でした。それでもシンガポール、マレーシア、フィリピン、香港、中国、中華台北から合わせて42名の選手、そして多くのコーチ、関係者が来てくれまし



▲左から優勝・須見、2位・MA Ka、3位・福岡、4位・砂川、5位・木村、6位・藤井の各選手

た。予選は1ゲーム目からハイスコアの連続。大変レベルの高い試合となりました。準決勝には48名が進出しましたが、そのうち10名がU15の選手たちでした。上位12名が進出した決勝トーナメントでは、11位通過の中学2年生、北海道の須見颯太(すみそうた)選手が優勝決定戦まで勝ち上がり、香港のMA Ka Yin Jovi選手を227:185で下し、見事第7回大会のチャンピオンに輝きました。須見選手には優勝賞金30万円とストーム社(ハイ・スポーツ社)から一年間のボール提供契約、12月にマレーシアで開催されるU22ジュニア

オールスターのスポンサーチケットが贈られました。U15の選手が優勝するのは大会史上初でした。JBの北海道連は北海道スポーツ協会の「ジュニアアスリート強化育成事業」を活用してこの大会に選手たちを派遣してくれました。強化事業に早速成果が出て、大会を運営する者としては大変うれしく思いました。



やました・ともかつ
1982年12月5日生まれ、長崎県出身。2000年~2011年ナショナルチーム在籍。2023年6月から長崎県スポーツ協会理事。全日本ボウリング協会理事。2023年4月から長崎県連副理事長。2022年からIBFアスリート委員。